

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	検診臨床重要課題2	日本人の未発症BRCA変異保持者に造影乳房MRI検診は勧められるか？
P	日本人の未発症BRCA変異保持者	
I	造影乳房MRI	
C	マンモグラフィ	
臨床的文脈		遺伝性乳癌(BRCA1/2遺伝子変異あり)の女性の生涯乳癌発症リスクは一般の女性と比較すると6~12倍と非常に高率である1)。従って、未発症のBRCA変異保持者に対する乳癌予防に向けた対策強化が日本人の乳癌死減少と日本の医療費抑制に貢献すると考えられる。

O1	死亡率減少
非直接性のまとめ	家族性/遺伝性乳癌の割合は欧米とほぼ同等の頻度で存在すると考えられているので、欧米のデータを日本人への適応することに問題なし。
バイアスリスクのまとめ	問題となるバイアスリスクはない。
非一貫性その他のまとめ	特に不確実性、効果の大きさなどに問題なし。
コメント	造影乳房MRIの導入からまだ経過が浅く長期経過観察の結果が最近発表されるようになっていたので論文数はまだ少ないが有効性が示唆された。

O2	感度
非直接性のまとめ	家族性/遺伝性乳癌の割合は欧米とほぼ同等の頻度で存在すると考えられているので、欧米のデータを日本人への適応することに問題なし。
バイアスリスクのまとめ	問題となるバイアスリスクはない。
非一貫性その他のまとめ	特に不確実性、効果の大きさなどに問題なし。
コメント	家族性/遺伝性乳癌の乳癌発症リスクは非常に高いので造影乳房MRIの感度がマンモグラフィのそれに比し1.8倍であることは検診(異常を早期にたくさん発見することが目的の1つ)という観点からは非常に有用である。

O3	偽陽性率(1-特異度)
非直接性のまとめ	家族性/遺伝性乳癌の割合は欧米とほぼ同等の頻度で存在すると考えられているので、欧米のデータを日本人への適応することに問題なし。
バイアスリスクのまとめ	問題となるバイアスリスクはない。

非一貫性その他のまとめ	特に不確実性、効果の大きさなどに問題なし。
コメント	患者（検診受診者）の最大の不利益である偽陽性率は乳房MRIとマンモグラフィとほぼ同定である。但し、乳房MRIとマンモグラフィを同時併用する乳がん検診では両者の偽陽性率が加算されるのでマンモグラフィ単独検診に比べれば当然、偽陽性率は増加する。

04	費用対効果
非直接性のまとめ	欧米と日本では乳房MRI検査費用が異なるので、欧米のデータを日本への適応することはできないが乳房MRI検査費用は欧米に比べてかなり安い。
バイアスリスクのまとめ	問題となるバイアスリスクはない。
非一貫性その他のまとめ	特に不確実性、効果の大きさなどに問題なし。
コメント	対費用効果はMRI検査費用と乳癌リスクに依存すると理解できる。この群の乳癌リスクは欧米と同等と考えられており、かつ日本のMRI検査費用は欧米のその費用に比べて格段に安く、MRI設置数も多いので検査アクセスも良いので家族性／遺伝性乳癌の未発症を対象にした乳房MRI検査は費用対効果面も欧米の結果よりはむしろ日本の乳房MRIに費用対効果が高い可能性があると思われる。